



令和3年8月12日 撮影

第1回タイ姉妹校とのオンライン交流を終えて

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、姉妹校のタイ国チュラボン科学高校ブリラム校との今年度の受入れと派遣は残念ながら中止となりました。

そこで、今年度は同校とのオンライン交流を4回にわたって実施することにしました。

第1回交流会が7月16日（金）17:00から視聴覚室で行われ、昨年度末に配備されたChromebookを使用し、GoogleMeetでオンライン交流を行いました。

以下に、担当教諭とALTから交流会の感想等をいただきましたので掲載します。

- 生徒はとても楽しそうで、興味をもって意欲的にコミュニケーションを取ろうとしていた。心から楽しんでいるのが手に取るように分かった。こうしたことが英語への学習意欲やモチベーションを高めることに繋がるのだろうという感想が寄せられた。
- お互いのSNSで個人的に繋がっている生徒が多く見られた。個人的にコミュニケーションを取ることにはできるが、スマホを使って音声と映像は使えないようなので、2回目以降の交流も充実させる必要がある。
- なかなか繋がらない班が1班だけあり、残り10分くらいのタイミングでALTや向こう側の協力で繋がることができ、その班だけ延長して交流をさせた。こうしたケースでは、どこまで延長させるかもあらかじめ考える必要がある。
- タイでコロナウイルスへの感染が増加し、姉妹校は8月6日以降休校に入ることになったとメールがあった。そのため、相手校からは、第2回は生徒の家から交流させる可能性があるのでは、第2回のトピックを教えて欲しいということだった。向こうの休校前までにこちらの意思を伝えるため、生徒に意見を募るなど、準備に取り掛かっている。



（文責：佐藤貢）

【生徒の感想から】

- オンラインでの交流でなかなか苦労することが多かったですが、タイの人達と楽しく交流することができてとても楽しかったです。
タイの人たちもたくさんスライドを作ってくれていて、すぐに緊張をほぐすことができました。私のつたない英語もしっかり聞き取ってくれたのか嬉しかったです。
ただ、男子三人と女子三人だったのであまり話が合わなくて残念でした。アベンジャーズの好きな人だったのですか、私達はぜんぜん見たことがないし、私はBTSが好きなのですか、相手は全然知らないみたいで話が弾みませんでした。できることなら女子と交流したかったです。もっと英語能力を身に付けたいと思ったので次回の交流までもっと勉強したいです。
- 海外の同世代の人とラフに話すことができてとても楽しかった。シンプルで簡単な英語でもとっさには出てこないことがあり、英語を使いこなすことは難しいと痛感した。
しかし、いろんな単語を紡いで話したり、上手く伝わっていないと感じた時は言い換えたりして会話ができるときはとても嬉しかった。
インターネット上では翻訳のアプリなども容易に活用できるが、生身の人間同士でコミュニケーションをとることで、気持ちやテンションも伝えられるのだ、と話すことの力の大きさを改めて感じた。
- タイの人たちとも幅広い話題についてたくさん話し合えた。特にタイの有名な食べ物について尋ねたとき、画像共有しながら料理の説明をしてくれたことが印象的だった。
用意の周到さに舌を巻くとともに、言葉だけで説明されるよりもより美味しそうに感じた。また、タイの人たちがSNSでも交流できるようアカウントを教えてくれたので、今でも個人的につながっている。タイ交流を通し、日本人以外の友達を作れるとても良い経験になった。
- 海外の先生と話すことはありましたが、同年代の人と話すのは今回が初めてでした。結構好きな歌手とかアイドルとかが一緒だったり、自分たちがやっているSNSでもつながることができるようにしてくれたり、タイと大館は遠いですが今までよりずっと身近に感じることができました。
最初から最後まで「難しい」よりも圧倒的に「楽しい」が勝っていて、続けることでもっと英語を好きになれそうです。単純に楽しかった！！
これからの交流を楽しみながら、お互いについて知って仲良くなれるように自分から積極的に話せるようにしたいです。
- 最初はお互いに緊張していてぎこちなかったけれど徐々に打ち解けていき、スライドを活用して自己紹介や、自分の学校についてたくさん話ができ良かったです。貴重な体験ができました。
- 海外の高校生は思っていたより、とても話しやすかったです。タイの方で、日本のアニメが好きと言っている方がいて、親しみがわきました。姉妹校交流の後、SNSで会話をしたりして仲良くなれた気がします。これからもつと仲良くなれて行けたらいいなと思いました。